

随筆文の読み方をしよう

解答

P01

図解 | 随筆文の読み方

【図解】随筆文では、体験・出来事と、そこから生まれた感想・気持ち、気づき、筆者の考えのつながりに注目して読む。体験・出来事は実際に起きたこと、感想・気持ちはそのときに感じたこと、気づきは体験から新しく分かったこと、筆者の考えは文章全体を通して伝えたいことを表す。

問1 | ①体験と感想

次の文は「体験・出来事」「感想・気持ち」のどちらですか。「昼休みに校庭へ出ると、桜の花びらが地面いっぱいに散っていた。」

解答：体験・出来事

補足：実際に見た出来事を述べているため。

問2 | ①体験と感想

「帰り道で突然雨が降り出した。かさを持っていなかった私は、ついていないなと思いながら走った。」この中で筆者の感想・気持ちを表している部分はどれですか。

ア 帰り道で

イ 突然雨が降り出した

ウ かさを持っていなかった

エ ついていないなと思った

解答：エ

補足：「ついていないなと思った」が出来事に対する筆者の気持ちを表している。

問3 | ②気づきと考え

「私は毎朝、花壇の横を急いで通り過ぎていた。ある日、立ち止まって見ると、小さなつぼみがいくつも開きかけていた。毎日見ている場所にも、気づいていない変化があるのだと思った。」筆者の気づきに当たるものはどれですか。

ア 毎朝花壇の横を通っていたこと

イ つぼみが開きかけていたこと

ウ 身近な場所にも気づいていない変化があること

エ 花壇の横で立ち止まったこと

解答：ウ

補足：体験を通して新しく分かった内容が「身近な場所にも気づいていない変化があること」である。

問4 | ③読み方確認

次の四つを「体験・出来事→感想・気持ち→気づき→筆者の考え」の順に並べなさい。

ア 自分から声をかけることで相手との距離が縮まることもあると思った。

イ 転校してきた生徒に休み時間に声をかけた。

ウ 話してみると好きな本が同じだと分かった。

エ 声をかけたあと、返事を待つ間は少し緊張した。

解答：イ→エ→ウ→ア

補足：イが体験、エがそのときの気持ち、ウが体験から得た気づき、アがそこから広がった考えに当たる。

体験と気持ちを読み取ろう

解答 P02

本文

【本文】放課後、私は図書委員の仕事で返却された本を棚に戻していた。窓の外で雨が降り始め、早く帰りたいと思って手を急がせた。最後の一冊を戻そうとしたとき、その本の間から古い貸出カードが落ちた。そこには十年以上前の日付と何人もの名前が並んでいた。私は、同じ本を、知らない誰かも読んでいたのだと想像し、急いでいた気持ちが少しやわらいだ。雨音を聞きながら表紙をなでると、図書館が本を置く場所ではなく、人の時間が静かにつながる場所のように思えた。帰るころには、さっきまでじゃまに思えた雨まで、いつもより落ち着いて聞こえた。

問1 | ①出来事を整理する

筆者が本を棚に戻す手を急がせたのはなぜですか。

解答：雨が降り始め、早く帰りたいと思ったから。

補足：「窓の外で雨が降り始め、早く帰りたいと思って手を急がせた」と本文に明示されている。

問2 | ①出来事を整理する

最後の一冊の間から落ちたものは何ですか。

解答：古い貸出カード

補足：「古い貸出カード」が正答。

問3 | ②気持ちを読む

古い貸出カードを見る前の筆者の気持ちとして最も適切なものはどれですか。

- ア 雨を楽しみながらゆっくり帰りたい
- イ 仕事を早く終えて帰りたい
- ウ 昔の読者について詳しく調べたい
- エ 図書館にもっと長く残っていたい

解答：イ

補足：「早く帰りたいと思って手を急がせた」ことから判断する。

問4 | ②気持ちを読む

筆者の「急いでいた気持ち」が変わるきっかけになったのは何ですか。

解答：古い貸出カードに十年以上前の日付と何人もの名前が並んでいるのを見たこと。

補足：「古い貸出カードを見たこと」まででも趣旨が明確なら可。

問5 | ③心情の変化

「急いでいた気持ちが少しやわらいだ」とあります。このときの筆者の様子として最も適切なものはどれですか。

- ア 早く帰ろうという気持ちが弱まり、本や昔の読者のことに心を向けた
- イ 委員の仕事をやめたいと思った
- ウ 雨が強くなったことに腹を立てた
- エ 貸出カードをなくしたことを心配した

解答：ア

補足：急いで帰ることだけに向いていた意識が、本と読者のつながりへ向いている。

問6 | ③心情の変化

筆者にとって雨は、はじめと帰るころとでどのように感じられるものになりましたか。

解答：はじめはじゃまに思えるものだったが、帰るころには雨音が落ち着いて聞こえるものになった。

補足：「じゃまに思えた雨が、帰るころには落ち着いて聞こえるようになった」という変化が書けていれば可。

問7 | ④理由と心情を読む

筆者が図書館を「人の時間が静かにつながる場所」のように思ったのはなぜですか。

解答：一冊の本を、時代の違う何人もの人が読んできたことに気づいたから。

補足：「同じ本を過去の多くの人も読んでいたこと」と「時間をこえたつながり」の両方が示されていれば可。

問8 | ④理由と心情を読む

帰るころ、雨が「いつもより落ち着いて聞こえた」ことから、筆者の気持ちはどのように変化したと考えられますか。

解答：早く帰りたいと急いでいた気持ちがやわらぎ、周囲を落ち着いて感じられるようになった。

補足：「急いでいた気持ちがやわらいだこと」と「雨を落ち着いて感じられるようになったこと」を含める。表現が異なっても趣旨が同じなら可。

気づきと筆者の考えを読み取ろう

解答 P03

本文

【本文】私は新しいものが好きで、古くなったノートや鉛筆はすぐ取り替えていた。ある日、美術室で絵を描いていると、隣の席の佐藤さんが短くなった色鉛筆を紙の筒にはめて使っていた。「まだこの色は使えるから」と佐藤さんは笑った。私には、その短い鉛筆が小さな勲章のように見えた。使った時間が長いほど、道具にはその人の工夫や思い出が重なるのかもしれない。家に帰って、引き出しの奥の欠けた消しゴムを見ると、以前なら捨てていたはずなのに、今日は少しだけ手が止まった。新しさだけを価値の基準にしていた自分の目に、別の物差しが一本増えた気がした。

問1 | ①体験を確認する

筆者のものの見方が変わるきっかけになった出来事はどれですか。

- ア 新しいノートを買ったこと
ウ 美術室で絵を完成させたこと

- イ 佐藤さんが短い色鉛筆を工夫して使う姿を見たこと
エ 引き出しを整理したこと

解答：イ

補足：佐藤さんが短い色鉛筆を使い続ける姿が、その後の気づきにつながっている。

問2 | ②気づきを読む

筆者はもともと、古くなったノートや鉛筆をどうしていましたか。

解答：すぐに新しいものへ取り替えていた。

補足：「すぐ取り替えていた」と答えられていれば可。

問3 | ②気づきを読む

佐藤さんの色鉛筆を見て、筆者は道具についてどのようなことに気づきましたか。

解答：長く使った道具には、その人の工夫や思い出が重なることがあると気づいた。

補足：「長く使うこと」「工夫や思い出が重なること」の両方を含める。

問4 | ③表現を読む

「その短い鉛筆が小さな勲章のように見えた」とあります。この表現が表していることとして最も適切なものはどれですか。

- ア 短い鉛筆が金色に光っていたこと
ウ 長く大切に使用してきたことに価値があると感じたこと

- イ 鉛筆が高価な品物だったこと
エ 佐藤さんが絵の大会で賞を取ったこと

解答：ウ

補足：「勲章」はここでは、長く使い続けたことの価値をたとえている。

問5 | ③表現を読む

家に帰った筆者が、欠けた消しゴムを見て「手が止まった」のはなぜですか。

解答：古い物にも、使ってきた時間や思い出による価値があるかもしれないと思うようになったから。

補足：佐藤さんの色鉛筆を見たことで、古い物にも使ってきた時間や思い出による価値があると感じたことが示されている。

問6 | ④筆者の考え

「別の物差しが一本増えた」とは、どのような意味ですか。

- ア 文房具の長さを測る道具を買った
ウ 物を捨てる回数を増やした

- イ 新しさ以外にも、物の価値を判断する基準を持つようになった
エ 佐藤さんと同じ文房具を使うようになった

解答：イ

補足：「物差し」は価値を判断する基準のたとえである。

問7 | ④筆者の考え

本文を通して、筆者の「物の価値」についての考えはどのように変わりましたか。

解答：新しさだけでなく、長く使った時間や思い出にも価値があると考えた。

補足：変化前の「新しさだけ」と変化後の「使った時間や思い出にも価値」の対比が示されている。

問8 | ⑤全体をまとめる

筆者はどのような体験から、どのような考えを持つようになりましたか。

解答：佐藤さんが短い色鉛筆を使う姿を見て、古い物にも使った時間や思い出に価値があると考えた。

補足：「佐藤さんが短い色鉛筆を使う姿」という体験と「古い物にも使った時間や思い出に価値がある」という考えを結びつけて書く。表現が異なっても両要素があれば可。

随筆文 総合・定期テスト対策

解答 P04

本文

【本文】毎朝、私は駅まで同じ道を歩く。角のパン屋、細い路地、信号の順番まで見慣れていて、考えごとをしながらでも着ける道だ。ある朝、工事でいつもの道が通れず、一本となりの道へ回った。私は少し面倒に思い、足早に歩いた。ところが、古い家の塀のすき間から、朝日を受けた小さな青い花が見えた。立ち止まるほどではないと思ったのに、数歩進んでからなぜか戻ってしまった。花は風に揺れ、塀の影の中で小さな灯りのように見えた。その日から私は、ときどき一本となりの道を通るようになった。すると、木の実を並べる子どもや、毎朝植木鉢に水をやる人にも気づいた。近道だと思っていたいつもの道は、目的地へ早く着くための線になっていたのかもしれない。少し遠回りをしたことで、私は道の途中にも立ち止まる理由があると知った。遠回りは時間の損だと決めつけていたが、急がないときにしか見えないものもある。

問1 | ①語句・内容確認

「遠回りは時間の損だと決めつけていた」の「決めつけていた」に最も近い意味はどれですか。

ア よく確かめたうえで正しいと判断していた

ウ 周囲の人から教えてもらっていた

イ 他の可能性を考えずにそうだと思い込んでいた

エ 一度考えたことをすぐに忘れていた

解答：イ

補足：「決めつける」は、他の可能性を十分に考えずに一方的に判断する意味。

問2 | ②体験の把握

筆者がいつもと違う道を通ることになったのはなぜですか。

解答：工事でいつもの道が通れなかったから。

補足：本文冒頭の出来事をそのまま根拠とする。

問3 | ③心情

一本となりの道を歩き始めたときの筆者の気持ちとして最も適切なものはどれですか。

ア 新しい道を歩けることが楽しみだった

ウ 道に迷うことを強く心配していた

イ 遠回りになることを少し面倒に感じていた

エ 青い花を探すことに夢中だった

解答：イ

補足：「私は少し面倒に思い、足早に歩いた」とある。

問4 | ③心情

筆者が青い花の前を通り過ぎたあと、数歩戻ったことから分かる気持ちとして最も適切なものはどれですか。

ア 青い花が気になり、もう一度見たいと思った

ウ 花を持ち帰ろうと思った

イ 道を間違えたことに気づいて慌てた

エ 工事の場所を確かめようと思った

解答：ア

補足：明示的な心情語はないが、通り過ぎたあと戻った行動から花に心を引かれたことが読み取れる。

問5 | ④表現

「花は風に揺れ、塀の影の中で小さな灯りのように見えた」という表現が表していることとして最も適切なものはどれですか。

ア 花が実際に光を出していた

ウ 塀のそばに電灯が置かれていた

イ 暗めの場所にある青い花が明るく印象的に見えた

エ 花が風で消えそうになっていた

解答：イ

補足：「小さな灯り」は比喻であり、影の中の花が明るく目を引いた様子を表す。

問6 | ⑤気づき・理由

筆者が、いつもの道を「目的地へ早く着くための線」になっていたと考えたのはなぜですか。

解答：早く駅に着くことばかり意識して、道の途中にあるものへ目を向けていなかったから。

補足：「目的地へ早く着くことを優先していたこと」と「周囲を見ていなかったこと」を含める。

問7 | ⑥筆者の考え

筆者がこの体験を通して伝えたいこととして最も適切なものはどれですか。

ア 目的地には最も短い道で行くべきだ

ウ 少し急ぐのをやめることで、今まで見過ごしていたものに気づくことがある

イ 毎日違う道を通れば必ず楽しいことが起こる

エ 工事中の道には近づかない方がよい

解答：ウ

補足：本文末の「急がないときにしか見えないものもある」が文章全体の考えを端的に示している。

問8 | ⑦総合記述

筆者は遠回りをした体験を通して、どのようなことに気づきましたか。体験と気づきが分かるように答えなさい。

解答：工事で遠回りをして花や人々の様子に気づいたことで、急がずに歩くと普段見過ごしているものを発見できると気づいた。

補足：「遠回りで花や人々に気づいた体験」と「急がないことで見えるものがあるという気づき」の両方を含める。表現が異なっても趣旨が同じなら可。